

序

— ヘッドライトに充電を —

川崎市公害研究所が昭和46年に発足して10周年を迎えようとしています。また、昭和31年に降下ばいじん等の大気汚染調査を開始して25周年も間近かくなりました。

さいきん、米国政府がまとめた「西歴2000年の地球」が政府ベースで報告書が公表され、公害の後追になりがちだった環境問題を一步進めて、国際的かつ将来に向って事前に環境保全措置を講じようとする姿勢が注目されます。

80年代はエネルギー転換等に伴う環境変化、複合大気汚染の解明、幹線沿道の交通騒音や窒素酸化物、浮遊粒子状物質の発生源アセスメント等、科学的知見に基づき早急に解決すべき課題も山積している現状であります。

社会環境の変化と共に環境公害問題も、その状況はたえず変化し、古い課題の解決と共に新しい問題の提起、あるいはそれらの重複によって公研に課せられた使命の重大さを痛感いたします。

幸いに当所の新進気鋭の技術者の5年、10年に及ぶ努力研さんによって最新の技術レベルを保持する段階にきました。今や、学会でも信頼される報告も少なくありません。

これは5年、10年のキャリアを有するスタッフの頭脳に期待するところが大であります。今後、公研が環境公害問題の科学的試験研究において、ヘッドライトの使命を果たすためには、5年、10年のキャリアを有する技術スタッフを柱として、たえず技術陣容の充電に心がけなくてはならないと思います。

ここに発刊の運びとなりました年報No.8は、ささやかではありますが、職員が多忙な試験研究のなかから、まとめた研究報告が中心となっています。これが、充電か、放電かは別として、いずれも本市の公害対策、環境問題と深い関係を有するものであります。

本年報をご高覧いただいた各位のご批判、ご指導を賜りますれば幸いです。

昭和56年3月

川崎市公害研究所
所長 寺部本次